

令和5年度事業報告書

社会福祉法人湘南の風

目 次

はじめに	1
基本理念・経営の原則・法人の方針	2
法人主要課題	3
利用実績	4
部門別	
法人本部／総務課	5～11
もやい	12～15
mai!えるしい	16～18
えいむ	18～20
新葉山はばたき	21～24
支援センター風	25～30
グループホームジャストサイズ	30～33
委員会・研究会	34～36

はじめに

令和5年度を終えて

令和5年度は、コロナ禍明けの年でありました。法人各施設においては、外出活動の増加、ボランティアの方々の受入れの再会に始まり、秋には、5年ぶりに「湘南の風感謝デイ」を開催することができました。感謝デイ当日は、250名もの来場者があり、地域の皆様やご利用者の皆様にたくさんの笑顔が見られ、改めて対面の交流の大切さを感じた次第です。引き続き、地域の福祉事業の担い手として、開かれた社会福祉法人を目指します。

本年度の事業に際しましては、主要事業として「感染症対策の強化」「人材確保と育成」「ジャストサイズの虐待防止と安定的運営に向けた取り組み」「利用者の重度化・高齢化に伴い出現する諸課題への対応」「第三者評価受審事業」の5つを掲げました。いずれも概ね予定通りの事業の進捗がありました。なかでも「利用者の重度化・高齢化に伴い出現する諸課題への対応」については、対策の一つとして、高齢化や重度化により、就労や通所施設等への通所が困難となった方が日中も過ごすことができる「日中サービス支援型グループホーム」の設置の検討を進めているところでありますが、その建設用地を確保するという大きな進展がありました。今後は、一日でも早く必要な方へサービスを提供できるよう建設及び運営の準備を進めてまいります。また、その他の事業においても継続して取り組み、適切な福祉サービスを提供できるよう取り組みを強化してまいります。

令和6年5月
理事長 小林 倫

社会福祉法人湘南の風

基本理念

1. 利用者が尊厳を持って、自立できる地域社会の実現を目指します。
2. 基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を行います。
3. 地域とともに歩み、地域から信頼される法人を目指します。
4. 常に法令を遵守し、良質な福祉サービスを提供します。
5. 法人の経営基盤を強化し、経営の透明性を確保します。

経営の原則

当法人は、事業を執行するに際し、法人定款第3条に規定する法人経営の原則を遵守します。

【定款】

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

法人の方針

1. 福祉サービスの質の向上

- ① いわゆるサービス利用困難者に対するサービス提供の実現を目指します。
- ② 個別支援計画の充実とサービス提供管理体制を構築します。
- ③ 障害者権利条約を守り、権利ある主体である個人の尊厳を重視した支援を行います。
- ④ 良質なサービス提供により利用者・家族・関係機関・地域社会との信頼関係を築きます。
- ⑤ 第三者委員によるサービスレベルの客観的な評価を受け、サービスの向上に努めます。
- ⑥ 人材育成と職員のモチベーションの向上のため、研修の充実を図ります。

2. 経営の透明性

- ① 法令遵守と権利擁護の推進により、地域社会の信頼を得るべく努めます。
- ② 第三者評価を積極的に受審し、運営事業の客観的な評価を受けます。
- ③ 事業運営の適正化を図るため、内部監査の充実を図ります。
- ④ ホームページや広報誌等により、事業内容や計算関係書類等の法人情報を公開します。

3. 経営基盤の強化と財政の健全化

- ① 中期事業計画に基づき、効率的な事業遂行と予算執行を行います。
- ② 法人の意思決定を行う中枢機関として本部機能を強化します。
- ③ 防災・減災体制を整備し、危機管理体制を強化します。
- ④ 各事業所における会計管理、予算執行管理を推進します。
- ⑤ 請求業務のチェック体制を強化し、正確で効率的な請求を行います。
- ⑥ 人材確保のため、年間を通じた職員採用計画を再構築します。

法人の主要事業

1. 感染症や災害に対する対応力の強化

○事業概要

感染症や災害発生時においても継続的なサービスの提供が行えるよう業務継続計画（BCP）を作成するとともに、関係者と共有し、平時から研修、訓練（シミュレーション）を行う。

2. 人材確保と育成

○事業概要

各施設の教育係の指導技術の向上を図り、また、多様な人材の受入れを踏まえたOJTとそれを補完するOFF-JT（職場内集合研修）を実施する。

3. 「ジャストサイズ」の虐待防止と安定的運営に向けた取組み

○事業概要

日中サービス支援型GHの運営開始に向け、人材確保、感染防止対策、業務継続体制等の観点からジャストサイズ全体の運営方法（職員配置、勤務時間割等）について研究・検討する。
また、居室内の事故防止、スタッフの正しいケアに対する意識向上等のため、共用スペースにカメラを設置する。

4. 利用者の重度化・高齢化に伴い出現する諸課題への対応

○事業概要

施設ごとに利用者の重度化・高齢化に伴い出現する様々な課題への対応について、研究・検討を進めていく。また、日中サービス支援型GHの建設については、候補地を確保する。

5. 第三者評価受審事業

○事業概要

実施事業のサービスの質の向上を図るため、今年度は「新葉山はばたき」が受審する。

利用実績

事業所名	定員	契約者数	年間稼働日数	延利用者数	稼働率	事業計画比較	
						延利用者数	達成率
もやい	40名	50名	246日	9,574名	97.2%	10,525名	91.0%
もやいデイサービス	20名	25名	246日	2,056名	41.8%	2,500名	82.2%
日中一時支援	5名	8名	246日	714名	58.0%	615名	116.1%
ヘルパー派遣	9名 48名	365日	130名 646名				
mai!えるしい	20名	18名	246日	3,683名	74.9%	3936名	93.5%
えいむ	40名	49名	246日	9,298名	94.5%	9,859名	94.3%
新葉山はばたき	40名 令和5年8月より	28名	246日	5,898名	59.9%	6,063名	97.2%
支援センター風 特定相談 障害児相談 介護保険		294名 163名 41名	249日				
地域活動支援センター	10名	20名	246日	807名	32.8%	1,230名	65.6%
ジャストサイズ	44名	44名	365日	13,693名	85.2%	13,6510名	100.3%
ジャストサイズ (小坪・堀内)	小坪2名 堀内1名	44名	365日	705名	64.3%	750名	94%

部 門 別

法人本部／総務課

1. 法令遵守

法人の運営状況を踏まえ定款の一部改正を行い理事会の開催頻度を改め、県実地指導や令和3年度報酬改定の全面施行を受け各事業所の運営規程の改正を行ったほか、労働安全衛生法の規定に基づきもやい衛生委員会を設置し、法人組織管理規程、就業規則の軽微な改正を行う等、常に法令遵守と適切な法人運営を念頭に業務を行いました。

2. 中期事業計画

昨年度改定した令和4年度から令和8年度までの中期事業計画に基づき進捗管理を行いました。各事業所の支援事業、施設・設備整備事業に関して計画年度の変更が様々な要因により必要となる場合には、理事会・評議員会において計画の修正を諮ります。

3. 連絡調整

法人内外の連絡、情報の収集・分析・発信及び理事会・評議員会、運営会議等諸会議の運営、第三者委員の事務局機能を担いました。

<理事会開催実績>

第1回理事会

開催日	令和5年6月1日（木）	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	社会福祉法人湘南の風 定款の一部改正について		(承認)
議案第2号	令和4年度事業報告及び決算について		(承認)
議案第3号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の改定について		(承認)
議案第4号	評議員候補者の選任について		(承認)
議案第5号	理事候補者の選任について		(承認)
議案第6号	監事候補者の選任について		(承認)
議案第7号	令和5年度定時評議員会の招集について		(承認)
議案第8号	評議員選任・解任委員会の招集について		(承認)
報告事項	理事長の職務執行状況の報告		

第2回理事会

開催日	令和5年6月22日（木）	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	理事長の選定について		(承認)

第3回理事

開催日	令和5年7月13日（木）	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	社会福祉法人湘南の風「もやい」生活介護事業運営規程等の一部改正について		(承認)
報告事項	(1) 理事長の職務執行状況について (2) 給食調理業務委託指名競争入札に係る業者の選定基準について		

第4回理事会

開催日	令和5年12月22日(金)	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	社会福祉法人湘南の風 法人組織管理規程の一部改正について		(承認)
議案第2号	社会福祉法人湘南の風 就業規則の一部改正について		(承認)
議案第3号	「支援センター風」指定特定相談支援事業 運営規程等の一部改正について		(承認)
	令和5年度第1回補正予算(案)について		(承認)
	日中サービス支援型グループホーム建設予定地取得に係る契約の締結について		(承認)
	給食調理業務委託に係る契約の締結について		(承認)
	令和5年度第1回臨時評議員会の招集について		(承認)
報告事項	理事長の職務執行状況の報告		

第5回理事会

開催日	令和6年3月8日(金)	出席者	理事5名 監事1名
議案第1号	社会福祉法人湘南の風 給与規程の一部改正について		(承認)
議案第2号	社会福祉法人湘南の風 もやい衛生委員会の設置に関する規程の制定等について		(承認)
議案第3号	「もやい」生活介護事業運営規程等の一部改正について		(承認)
議案第4号	令和6年度役員等のために締結される保険契約の内容について		(承認)
議案第5号	令和6年度事業計画(案)について		(承認)
議案第6号	令和6年度収支予算(案)について		(承認)
議案第7号	令和5年度第2回臨時評議員会の招集について		(承認)
議案第8号	施設長等の任免について		(承認)
報告事項	理事長の職務執行状況について/予備費の使用について		

<評議員会開催実績>

定時評議員会

開催日	令和5年6月22日(木)	出席者	評議員9名
報告	令和4年度事業報告について		
議案第1号	社会福祉法人湘南の風 定款の一部改正について		(可決)
議案第2号	令和4年度計算書類及び財産目録について		(可決)
議案第3号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の改定について		(可決)
議案第4号	理事の選任について		(可決)
報告事項	予備費の使用について		

第1回臨時評議員会

開催日	令和6年1月23日(火)	出席者	評議員9名
議案第1号	令和5年度第1次補正予算(案)について		(可決)
報告事項	予備費の使用について		

第2回臨時評議員会

開催日	令和6年3月21日(木)	出席者	評議員8名
議案第1号	令和6年度事業計画(案)について		(可決)

議案第2号	令和6年度収支予算(案)について	(可決)
報告事項	予備費の使用について/令和6年度人事について	

<第三者委員施設訪問実績>

新型コロナウイルスが5類に移行したことを踏まえ、訪問を再開しました。

7/12 に年間活動の打ち合わせを行い、9/19、10/18、11/22、12/20、1/17、2/21 に分けて各事業所の施設訪問を行った他、3/15 に令和6年度に向けた打合せを行いました。

4. 人事

①採用

正職員については、新卒者1名、中途採用者8名となりました。有期契約職員の採用については募集チラシの作成及び逗子・葉山地域へのポスティング、求人情報誌への掲載及びホームページによる採用情報の掲載を行い、法人全体で14名を採用しました。

②研修

集合研修

研修名	実施日	講師又は依頼先	内容	対象者	参加者
新採用職員研修	6月、7月、8月 9月、1月、2月	法人管理者	法人の理解、障がいの理解等について	新規入職正職員	9名
障害者虐待防止・身体拘束等適正化研修	2月、3月	動画視聴（所内研修） 講師を招いた集合研修	障がい者虐待の基礎的な理解や虐待防止のための取り組み、身体拘束の適性を学ぶ	法人職員全員	—
安全運転講習会	3月	動画視聴（所内研修）	交通安全に対する意識向上について	運転業務従事職員、 運転員	12名
接遇研修	7月・9月・10月	研修委員	対人サービスの基礎となる接遇マナーやビジネスマナーを学ぶ	未受講の法人職員全員	計60名
食事介助と嚥下機能研修	12月～1月	動画視聴（所内研修）	適切な食事介助や誤嚥防止、口腔ケアについて	法人職員全員	97名
感染症対策研修①	1月	逗葉地域医療センター	ノロウイルス等感染症に対する具体的な対策について理解を深める	法人職員全員	15名
介護技術研修	8月	神奈川県介護福祉士会	介助の基本、人間の自然な動きや業務内の困った事例について	法人正規職員	19名
感染症対策研修②	2月～3月	伝達研修（所内研修）	ノロウイルス等感染症に対する具体的な対策について理解を深める (感染症対策研修①参加者による伝達研修)	法人職員全員	—
メンタルヘルス研修	12月	動画視聴（所内研修）	メンタルヘルスケアの必要性を理解し、ストレスへの具体的な対策について理解を深める	法人職員全員	—
コンプライアンス研修	通年	教材を用いた所内研修	社会福祉施設で起きる具体的事例を用いたNG行動への気づきとグループワーク	法人職員全員	—
階層別研修①	通年	法人管理者	支援の基礎となる基本的な知識の習得する	1～3年目正職員	15名
階層別研修②	通年	法人管理者	各事業所の事例を通して具体的な支援知識を深める	4～9年目正職員	13名
階層別研修③	通年	法人管理者	事業所の目的を達成させるために、チームで課題解決に取り組める人材を育成する	10年目以上、主査、 サビ管、業務リーダー	15名
中間事業報告会	10/6	各事業所職員	令和5年度上半期の事業報告（対面実施）	法人正職員全員	—

派遣研修

研修名	実施日	主催	内容	対象者	参加者
サービス管理責任者更新研修	—	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	サービス管理責任者 ※当年度該当者無	0名
サービス管理責任者基礎研修	8/18	かながわ福祉サービス振興会	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者	1名
サービス管理責任者補足研修	—	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者 ※当年度該当者無	0名
サービス管理責任者実践研修	9/13-14 12/19-20 1/16-17、2/15-16 3/12-13	神奈川県社会福祉協議会 神奈川福祉サービス振興会	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者	5名
相談支援従事者初任者研修	10月～12月	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の技術を習得し、相談支援業務に携われる人材を育成する	相談支援補助従事者	3名
相談支援従事者現任者研修	6月～8月	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	相談支援に従事する者が、障がい者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	相談支援従事者	1名
強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/7、8/3・4、 11/30、12/1 1/25-26	藤沢育成会 神奈川県	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援を行う職員の人材育成を目的にする	強行支援者	8名
強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	—	神奈川県	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援計画を作成することが可能な職員の人材育成を目的にする	強行基礎研修修了者 ※当年度該当者無	0名
新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会	6/16-7/28、11/16、 12/11	神奈川県社会福祉協議会	分野・種別を超えて同じ階層の仲間と共に福祉従事者としての意識を高め、専門職として学び続ける姿勢をつくる	初任正職員	6名

中堅職員合同交流・研修会	7/20、9/28	神奈川県社会福祉協議会	これまでの仕事の振り返りや同じ階層の仲間との交流を通じて中堅職員としての目標をつくる	中堅正職員	2名
新任職員キャリアパス対応生涯研修	9/15、22	神奈川県社会福祉協議会	社会福祉従事者の基本姿勢や新任職員の役割を学び、従事者としての将来像をマナブ	新任正職員	4名
中堅職員キャリアパス対応生涯研修	11/8、9	神奈川県社会福祉協議会	管理職員としての役割を理解し、キャリアアップの方向性及び組織の発展、人材育成に必要な知識及び技術の向上を図る	リーダー職	3名
管理職員キャリアパス対応生涯研修	10/12、18	神奈川県社会福祉協議会	管理職員としての役割を理解し、キャリアアップの方向性及び組織の発展、人材育成に必要な知識及び技術の向上を図る	管理者	1名
職場研修担当者研修会	—	全国社会福祉協議会 中央福祉学院	職場研修の運営実務に関する知識、及び技術の習得を図る	研修担当職員	0名
安全運転管理者講習会	9/1	神奈川県警察	自動車の安全な運転に必要な知識、運転従事者への安全教育に必要な知識及び技能、安全運転に必要な知識及び技能	安全運転管理者	1名
福祉経営研究機構 オンラインセミナー	9/4	福祉経営研究機構	社会福祉法人の今後の20年～事業継続を考える～	管理者	1名
人事労務セミナー	2/14	公益法人協会	職員採用時の人事管理のポイント、自己都合退職と合意退職、解雇の有効性と適正基準、退職者の守秘義務、有期契約での途中解雇等適切な法人運営のための知識等について学ぶ	管理者	1名

視察研修

研修名	実施日	視察先	目的	対象者	参加者
自主県外視察研修	中止	—	—	—	—

③職員育成

職員については、年度当初に自己申告書を作成し、職員育成指針に基づく目標設定等を行いました。下半期には目標の振り返り、自己評価、管理者の評価・面談を行いました。有期契約職員については、新年度に向けた契約更新の意思確認も含め、年末から年始にかけて意向調査を実施しました。

④給与

給与、賞与、退職金等の計算、社会保険加入手続き等を行いました。

⑤その他

国家資格取得に係る受験費用を法人から支給する制度を令和元年度から設けました。当年度、国家資格取得者への報奨金を2名に支給しました。

⑥福利厚生

例年職員厚生団体への支援・補助を行っておりますが、今年度につきましても引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、事業実施を見送ったため補助金の交付は行いませんでした。

5. 広報

法人会報を年4回発行しました。情報開示については、法人ホームページでの定款、財務諸表の公開をはじめ、全国社会福祉法人経営者協議会等の関連団体の専用サイトなどを活用し、経営の透明性を担保する情報開示に努めました。

6. 防災

緊急連絡網を年度当初及び入退職の度に更新し、有事を想定した緊急連絡テストを実施しました。

7. 収入

新型コロナウイルスの影響が3年に渡り大きな影響がありましたが、今年度はそこまで大きな影響がありませんでした。前年度の新型コロナウイルスの影響額の減少と稼働率の増加が主な要因となり、障害福祉サービス等の事業収入は、前年度と比較して約2,731万円の増収となりました。

8. 運営管理出納事務

毎月行われる運営会議にて各施設の稼働率・資金収支の推移を確認し、問題点の早期発見及び問題解決の話し合いを随時行いました。

9. 委託業務出納事務

計画のとおり執行しました。

10. 施設整備出納事務

もやいにおいて3階奥の部屋を日中一時と生活介護の両方で支援出来るように改修工事(約612万円)を行いました。mai!えるしいにおいて空調機更新工事(191万円)を行いました。えいむにおいてLED化工事(約985万円)、洗面台、玄関工事(約430万円)、新葉山はばたきにおいて駐車場拡張工事(約454万円)を行いました。その他各事業所において経年劣化による修繕や細かい整備を行いました。

もやい（生活介護／日中一時支援/行動援護・移動支援）

1. 支援事業

(1) もやい

- ①男女人数 男性 29 名 女性 21 名
- ②年齢構成 19 歳～62 歳（平均年齢 39.9 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	2	16	9	23	50

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	26	重複障がい（知的、身体）	22
身体障がい	1	重複障がい（身体、精神）	1
		合計	50

⑤入退所の状況

新規利用者 0 名

退所者 3 名（施設入所：2 名、逝去：1 名）

⑥支援の内容

職員の育成として、月に一度の職員ミーティングにて施設長・副施設長等が講師となり、知的障がい者支援の基本から専門的な理論等について学ぶ取り組みを行いました。また、各グループの具体的な課題解決を目的に月 2 回、継続的なミーティングを実施しました。その結果、利用者の特性に合わせた環境の整備が進みました。

利用者の高齢化、障がいの重度化への対策として、提供する活動内容等の見直しや対応方法の変更を行いました。重複障害（知的・身体）の方を中心にスヌーズレンやムーブメント・リズム体操等の活動を提供し、利用者の中には、コミュニケーションが活性化した方、能動的な動作が増加した方が見られています。又、加齢等により著しい意欲の低下が見られた方へ、10 代～20 代の頃に楽しんでことや得意であった活動を調べ、それらを提供したところ、表情に変化が見られ、自ら活動に参加する等の大きな効果が見られました。今後も利用者のニーズに即した支援を展開してまいります。

(2) もやいデイサービス

- ①男女人数 男性 16 名 女性 9 名
- ②年齢構成 48 歳～90 歳（平均年齢 70 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	4	9	3	5	4	25

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	2	重複障がい（知的、精神）	1
身体障がい	19	重複障がい（身体、精神）	1
精神障がい	2	合計	25

⑤入退所の状況

新規利用者 0名
 退所者 2名（逝去）
 退所者 1名

⑥支援の内容

令和5年5月にコロナ過が明け、利用者の希望であった外出活動を再開しました。お花見など季節を感じる外出や買い物等を通じて、利用時間のコミュニケーションは活発になり、社会参加の機会も増えました。これらの経験が利用者の笑顔につながったことを実感しています。

また、室内での活動は、昨年度より継続して取り組んでいる身体や頭を使う体操やゲーム、ご本人の趣向に応じた余暇活動、入浴（希望者）を提供しました。身体機能や筋力の維持に役だっています。

年間の平均稼働率は41.8%であり目標値の70%を大幅に下回りました。引き続き新規利用者を増やすため、逗子・葉山の利用ニーズの調査やニーズに応じた事業展開等について検討します。

(3) 日中一時支援

- ①男女人数 男性76名 女性2名
- ②年齢構成 14歳～39歳（成人3名を含む）
- ③基本報酬区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	5	1	1	1	8

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	7	未判定	1
		合計	8

⑤入退所の状況

新規利用者 0名
 退所者 1名（他事業所利用）

⑥支援の内容

利用する児童・生徒の社会適応の観点から一人ひとりの障がい特性に応じた「余暇支援」「学習支援」「運動」等、一人ひとりに適した活動プログラムを提供しました。

遊びや運動を通じて社会的ルールを学ぶこと、選択する取組みを通じて児童・生徒の成長を確認することができました。

(4) ヘルパー派遣事業（行動援護・移動支援）

ヘルパー派遣事業（行動援護・移動支援）

① 行動援護

・契約者数 男性7名 女性2名（合計9名）

・障害支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	2	7	9

月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
延利用者数	12	12	9	7	8	9	12
延時間数	65.5	60	43	37	42.5	49	65.5
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延利用者数	9	15	12	13	12	130	
延時間数	49	84	64.5	73.5	67	700.5	

② 移動支援

- ・契約者数 男性 22名 女性 26名 (合計 48名)
身体介護有：34名 身体介護無：14名

月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
延利用者数	58	49	52	48	48	59	55
延時間数	328.5	283.5	300.5	283.5	271.5	371	321
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延利用者数	59	57	49	53	59	646	
延時間数	347	331.5	298.5	312.5	341	3790	

① 支援の内容

令和5年5月にコロナ禍が明け、行動制限もなく利用者が希望する場所に行くことができるようになりました。カフェやレストランでの食事や、スポーツジム・美術館巡り、図書館で趣味や興味に合わせた活動も行いました。

外出活動の広がりにより、ご本人が望む余暇的な時間を過ごすことができるようになり、利用者の生活の質は向上したものと考えます。今後も利用者のご希望に応じ、楽しく、安全な外出をサポートします。また、ヘルパーへの研修を定期的で開催し、質のよいサービスを担保できるよう取り組みます。

2. 施設管理事業

全稼働日のトイレ清掃を業者委託することで業務の効率化に役立ちました。その他、電気設備、消防設備、エレベーター等の定期的な保守管理を行うことで安全な環境を維持しました。

3. 施設整備事業

もやいデイサービスにおいて、利用者の使用頻度の少なかった和室を事務所として活用するために改修工事を行いました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
6/15～7/28	新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会（オンデマンド）	藤岡、菊池 桶川
7/14	神奈川県意思決定支援ガイドライン研修	石黒
7/19	アンガーマネジメント研修	小野
7/27	新任職員人権研修	菊池
9/15、22	初任者キャリアパス対応生涯研修	高橋、藤岡 菊池、桶川
10/12、18	管理職員キャリアパス対応生涯研修	山崎
11/8、9	中堅職員キャリアパス対応生涯研修	藤原
11/16	新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会【後期】	伊藤、松田
11/30、12/1	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	藤原
12/1	第1回事務研修部会	山崎
12/1	新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会【後期】	藤岡、菊池 岡川
12/8	子ども自立生活支援センター（きらり）専門分野公開研修	山崎、高橋
12/20	支援スタッフ部会12月例会（メンタルヘルスケア）	菊池
2/19	神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会	小野

- ・所内集合研修として年間計画を策定し、月に1回、正職員と非常勤職員（支援員）が一堂に会し、支援の基礎から応用を学ぶ機会を設定しました。研修の方法はテーマにより講義・グループワーク・演習としました。グループワークや演習は実際の事例を用いて、獲得した知識や技術を早期に支援現場に反映するよう工夫しました。
- ・月に1回の集合研修に加え、サポーターズカレッジのウェブ講義の視聴を行う研修会を下半期から月に1回実施しました。所属するグループ毎にテーマを設け、該当するコンテンツの視聴を行いました。

5. 防災事業

- ①訓練 火災訓練を1回（2月）、津波訓練（屋上避難）を1回（12月）実施しました。市内一斉大津波避難訓練（10月）に参加しました。
- ②備品 備品のリスト作成と動作確認を実施しました。

6. 総括

本年度は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類感染症となり、事業所の閉鎖等はありませんでしたが、感染者が増加した時期等は、個別に通所を控える等の影響がありました。利用者の安全な活動提供を第一に考え、必要な感染対策を講じながらサービスの提供にあたりました。

質の良い支援を提供するため、月次で行っている全職員参加のミーティングを職員の知識や技術を獲得するための人材育成の場として、年間でテーマを定め、講義やグループワークを実施しました。正職員非常勤職員共に支援の目的や意図を十分に理解し、支援方法等に様々な改善が見られました。その結果、利用者の中には、これまでより情緒的に安定したり、意欲的に活動に参加する方が増える等多くの面で効果が見られました。一方で昨今の人材不足等の影響を受け、年度途中の職員採用等により、全体的に実務経験が少なめの職員集団となっています。今後は、職員の知識や経験に応じたきめ細かいOJTの実践が肝要です。その他、法人への帰属意識を高め、職員みなが同じ方向を向き利用者支援に取り組めるよう、引き続き法人の「基本理念」等について学ぶ取り組みを実施

します。

mai!えるしい（就労継続支援B型）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 12 名 女性 6 名
- ②年齢構成 24 歳～66 歳（平均年齢 44.3 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	4	0	5	6	3	0	0	18

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	14	重複障がい（知的、精神）	2
重複障がい（知的、身体）	1	精神障がい	1
		合計	18

⑤入退所の状況

- 新規利用者 1 名
- 退所者 1 名（他所利用）

⑥支援の内容

昨年度に続き製菓作業では逗子市役所売店「青い鳥」での販売や施設外就労から派生した販売機会や、SNSを通じた顧客、3pm（さんじ）を通じた大口の注文、また地域行事の販売機会が復調したことを受け、前年比 108%の増収でした。施設外就労、受注作業、受託製造・受託加工も合わせた全体の数字では昨年比 102%となりました。施設外就労に関して3名の収録枠があるものの従事可能な利用者が2名しかいないため収益を上げ切れていない状況を改善できませんでした。個別支援計画に基づき、利用者が自ら「見てわかる」ことで自ら「動くことができる」ことを目指した掲示や作業指示を行いました。生活面の状況を鑑みた上、相談支援と連携し、法人外の他事業所の利用に移行した利用者が1名ありました。

2. 施設管理事業

通年で3回の手当を支給し、平均支給工賃月額 18,000 円（令和6年4月30日現在）となり、全国平均工賃月額（17,031 円）を超えることができました。次年度は工賃に係る時給について見直しを行います。

収益構造の軸となる製菓作業を始め、施設外就労、各種受注・受託作業においても大きな事故無く年間を通して安定した活動提供が出来ました。

新規利用者の獲得は次年度以降も継続課題となりました。

3. 施設整備事業

経年劣化に伴い空調設備の部分更新工事を実施しました。予定していた製菓用オーブンの入替工事については令和6年度の事業に繰り越すこととなりました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
7/28	苦情解決研修（基礎編）	橘
8/10	意思決定ガイドライン研修	原田
8/18	サービス管理責任者基礎研修（前期開催コース）	原田
11/8～9	福祉職員キャリアパス対応生涯研修	三橋
12/5～18	相談支援・就労支援セミナー研修（Zoom）	原田
12/6～7	販売に関するコンプライアンスセミナー	橘
3/18	報酬改定の基本的な方向性について	橘

【所内研修】

実施日	内容	参加者
4/25-29	社会福祉事業を運営する法人格について（動画研修）	1名
5/16-19	コーチング①（動画研修）	1名
5/30-6/3	コーチング②（動画研修）	1名
6/13-14	ダウン症（動画研修）	1名
6/20-24	知的発達障がい者の感染症対策（動画研修）	1名
7/5-6	基礎心理学（動画研修）	1名
7/12	はじめてのスーパービジョン（動画研修）	1名
7/13	知っておきたい障がい者支援関連制度	1名
2/6-7	発達心理学（動画研修）	1名
2/13-17	衝動性のコントロールについて（動画研修）	1名
3/4	ストレスマネジメント（動画研修）	1名
3/6	中堅職員のためのリスクマネジメント（動画研修）	1名
3/19	福祉施設の個人情報管理（動画研修）	1名
3/22	中堅職員の期待と役割（動画研修）	1名

5. 防災事業

- ① 支援センター風と合同で、火災避難訓練 1 回、津波避難訓練 1 回を行いました。
- ② 防災備品の点検・入替を行いました。

6. 工賃支払状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
金額	165,130	178,810	186,960	183,135	165,040	162,360	188,400
人数	18	18	18	18	18	18	18
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
金額	533,680	172,270	161,560	171,200	1,689,960	3,958,505 円	
人数	19	19	19	18	18	219 名	
					平均	18,075 円	

※週 1～3 回、半日利用の利用者を含む。※10 月、3 月は期末手当を含む。

7. 総括

就労支收取支については自主製品販売、受託製造、受託加工全ての収入が増加しましたが大きな伸びにはならずほぼ現状維持といった結果となりました。施設外就労では企業で働く際の就業準備性を利用者・職員も学ぶことができ、利用者の就業能力の向上にも寄与しました。平均工賃は

¥18,000（昨年比 108%）となり、全国平均を超える状況を維持することが出来ました。

平均年齢が 40 代中盤になっていることから利用者の心身の状況をご家庭、グループホーム、医療機関、相談支援事業所とも連携する必要性が高まる傾向は昨年度から継続しています。次年度も引き続き、従来の支援ニーズ（①就労継続、ステップアップを目標とした訓練的支援②人的交流、社会参加を目的とした社会的活動・生産活動③機能低下防止のための活動）に加え、ご本人、ご家族の高齢化にも対応して参ります。

えいむ（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 43 名 女性 6 名
- ② 年齢構成 18 歳～53 歳（平均年齢 36.6 歳）
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	2	17	19	11	49

④ 障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	47	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	1	合計	49

⑤ 入退所の状況

新規利用者 3 名
退所者 1 名

⑥ 支援の内容

利用者一人ひとりの現在の状態を再度確認するためのアセスメントを実施し、スケジュール提示方法の見直しや、能力や興味・関心、年齢に応じた活動の再編を行いました。結果、複数名の利用者の方で、作業効率の向上や、安定して活動に参加される等の効果が見られています。館内活動のみではなく、ウォーキング等の外活動時にもアセスメント結果から得られたスケジュール提示方法等を用いることで、外出先でも見通しを持ちながら歩くことが出来、余暇の幅を上げられるようになりました。

その他、生涯発達に基づいた支援として、個別学習や掃除等の生活スキルを高める支援に取り組みました。学生時代に学び、得意としていることを基本としながら実生活に活かすことの出来る内容とすることで、自発的に取り組む姿が見られています。

今後も、各利用者のニーズに応じた活動提供について検討を行います。

2. 施設管理事業

5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動に取り組み、施設内外の不用品の廃棄等、環境整備を行いました。

3. 施設整備事業

照明機器を更新し、LED照明に切り替えました。また、経年劣化した3階洗面台の改修、3階廊下壁へのパネル貼り付け、玄関扉の修繕を行いました。その他、効果的な支援を行う上で、適宜、各利用者の障がい特性に応じた支援環境の整備を行いました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
6/15-7/28	新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会〔前期〕(オンデマンド)	矢野
6/17、18	自閉症eサービス@かながわ 自閉症の評価セミナー	藤代
7/27	新任職員人権研修	矢野
7/29-8/2	自閉症療育者のためのトレーニングセミナー	熊岡
8/3、4	強度障害支援者養成研修(基礎研修)	池谷
8/7	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修「事業所交流会」	藤代
9/8	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修「権利擁護とアンガーマネジメント」	池谷
10/17	意思決定支援ガイドライン研修	鈴木
10/24、25	自閉症支援基礎講座	白土
11/8、9	中堅職員キャリアパス対応生涯研修	高野
11/16	新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会〔後期〕	矢野
11/22	発達障害支援センター支援者向け講座	矢野
11/28	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修「事業所交流会」	池谷
11/30、12/1	強度行動障害支援者養成研修(基礎講座)	高野
2/1-3/10	5法人ジョイントセミナー 高齢期ASDの支援(オンデマンド)	斗舛
2/9	逗子市・葉山町基幹相談支援センター主催研修「意思決定支援」	白土
2/19	オンブズマンネットワーク交流研修会	矢野
2/24	Autism Caravans 実践セミナー	矢野
3/5	神奈川県知的障害施設団体連合会支援スタッフ部会	池谷
3/15	逗子市・葉山町基幹相談支援センター、横三圏域発達障害者地域支援マネージャー共催研修「自閉症支援」	白土

・所内集合研修として年間計画を策定し、月に1回、正職員と非常勤職員(支援員)向けに、利用者支援の知識や技術、権利擁護等の研修を実施しました。研修形式は、講義とグループワークをあわせたものとし、研修で得た知識等を即支援現場で活かせるものとなるよう行いました。

5. 防災事業

- ①訓練 火災を想定した総合訓練(消火・通報・避難)を年2回実施しました。緊急連絡網の訓練について年1回実施しました。
- ②備品 使用期限切れの非常食の入替えを行いました。

6. 総括

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業はなかったものの、依然としてコロナ

ウイルスに関連しての利用自粛、利用者の状態変化による欠席が複数名あり、目標の稼働率の達成には至りませんでした。

幅広い年齢層の利用者一人ひとりに合った活動再編の一環として、個々人の特性を改めて見直し、その上でライフステージに沿った活動提供に取り組んでまいりました。その中で、利用者が新たなスキルを獲得したり、活動の幅が広がることは職員のモチベーション向上にも繋がりました。

また、年間を通して、利用者支援に関する知識・技術の習得と向上を目的とした所内研修を計画的に実施するとともに、適宜ケース検討会を行いました。行動障がいのある方の支援に関しては、繰り返し、正しい利用者理解やケース検討を重ねることで、状態が改善していきいている方もいる一方で、なかなか安定した利用、活動への参加に至らない方もいらっしゃいます。引き続き、利用者理解を深める研修、ケース検討会を実施していくことで、利用者一人ひとりに適した支援を提供出来るよう努めてまいります。

えいむ（横須賀・三浦保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業：神奈川県委託）

1. 支援事業

業務内容としては①地域の関係機関からの支援依頼に応じたコンサルテーション②支援困難ケース等はかながわA（神奈川県発達障害支援センター）との連携をコーディネート③圏域の発達障害に係る課題の抽出④検討機会の構築（地域連絡会の開催）です。

機関コンサルテーション	地域巡回	関係諸会議への参加機会
70件(前年比+13件)	115件(前年比+20件)	60件(前年比+19件)

※かながわA連携業務は関係諸会議への参加機会に集約されています。

2. 総括

コンサルテーションニーズとしては、サービス利用中の他害や暴言等の行動障害に関わるものが主となっており、小学生をはじめとした子どもに関する依頼が多くありました。地域巡回においても、行動障害を起こす方への対応に苦慮しているとの相談が多く寄せられており、地域の課題として障害に対する正しい理解と適切な対応方法の普及、機関連携の必要性が感じ取れました。

新葉山はばたき（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 15 名 女性 13 名
- ②年齢構成 19 歳～74 歳（平均年齢 42.2 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	3	4	6	9	6	28

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	19	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	9	合計	28

⑤入退所の状況

- 新規利用者 3 名
- 退所者 0 名

⑥支援の内容

生涯発達支援に基づき、利用者個々の多様化するニーズに対して重点支援領域を設定し個別支援計画を策定しました。活動提供については年齢層や主たる障がいが多岐に亘るため小集団でのレクリエーションの実施や水福連携として葉山町漁協共同組合からの作業の受注と利用者の方の活動の幅の拡大にも繋がりました。今後も利用者の方の障がい特性やニーズに対し対応すべく活動の在り方について検討を継続します。

支援環境については、利用者の方の障がい特性に応じた環境整備を図り、限られた人員で効果的な支援が展開できるようフロアミーティング等でレイアウト変更や支援備品の入替え等を行いました。

2. 施設管理事業

- ① 法令に基づく消防用設備点検、エレベーター保守点検、害虫駆除防除については専門業者に委託し実施しました。
- ② 公益社団法人神奈川県介護福祉士会による第三者評価において令和 5 年 11 月 30 日に訪問調査を実施しました。翌年 3 月に評価結果が同法人神奈川県介護福祉士会ホームページに公表されました。
- ③ 新規利用者の受け入れや今後のサービスの需要に対応すべく 8 月 1 日付で定員を 20 名から 40 名に変更しました。

3. 施設整備事業

令和 5 年 7 月 5 日から 7 月 18 日の期間で来客者等の利便性の向上を図るべく敷地内駐車場を拡張するため、舗装整備等に着手しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内 容	参加者
5/26	強度行動障害の理解と支援～ASD の特性理解を中心に～	菅原
5/29～6/12	接遇・マナー研修	菅原
6/5、7	チームリーダーキャリアパス対応生涯過程研修	岡本
6/16	普通救命講習	三留
7/21	普通救命講習	菅原
7/27	新任職員人権研修	萩原・下地
7/28	苦情解決研修会基礎研修	三留
8/4	普通救命講習	下地
8/7	人材育成マニュアルについて	守谷
8/29	摂食嚥下機能の5期 Model の理解	三留
9/1	安全運転管理者等講習会	萩原
9/7、25	キャリアパス制度の運用点検と人材育成	萩原
9/8	権利擁護とアンガーマネジメント	谷崎
9/12	障がい福祉システム絆 Core あすなる導入事例セミナー	萩原
10/11	神奈川県指定障害福祉サービス事業者等に対する指導講習会	萩原
11/15	改正障害者差別解消法に係る説明会	萩原
11/28	支援者同士の情報共有について	菅原
11/22～12/22	認知症又は認知症の疑いのある知的障害者への支援と課題	三留
11/30～12/1	神奈川県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	菅原
12/5、6、 12、13	PECS レベル1 ワークショップ	三留
12/13	地域共生社会と人材育成	萩原
12/20	対人援助職のメンタルヘルスケア	守谷
1/11	令和6年度報酬改定の概要について	萩原
1/23	プレリーダー研修	三留
1/30、2/6	行動障がい支援 start up セミナー	下地
2/1～3/10	高齢期の ASD の支援について	萩原
2/2	自閉傾向にある児童への適切な支援研修	菅原
2/6	神奈川県障害者虐待防止・権利擁護研修	守谷
2/9	意思決定支援	下地
2/15	職場内のコミュニケーションについて	三留
2/19	神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会	萩原・菅原
2/22～3/8	コーチング研修	守谷
2/26	衛生推進者養成講習会	岡本
3/1	第33回こうさい療育・支援セミナー	菅原
3/4	障害福祉サービス事業所の運営いろは	萩原
3/5	当事者目線の意思決定支援の実践に向けて	菅原
3/5、6、 12、13	PECS レベル1 ワークショップ	下地
3/7	ティーチング・コーチング研修	萩原
3/12、13	神奈川県サービス管理責任者実践研修	岡本

3/18. 19	甲種防火管理者新規講習	萩原
3/28	福祉教育の必要性やその取り組みから自分達にできることを考える	萩原

【所内研修】(映像配信研修)

実施日	内 容	参加者
5 月期	障害福祉とは	8 名
6 月期	知的障がい者とは	1 2 名
7 月期	障がい者との関係構築	8 名
8 月期	高齢知的障がい者の支援	8 名
9 月期	知的・発達障がい者の高齢期への準備～変化に気づき早期に対応するために～	8 名
10 月期	虐待防止(実践編)	8 名
11 月期	身近な家族を含めた支援を考える	7 名
12 月期	感染症予防	7 名
1 月期	リスクマネジメントについて	7 名
2 月期	自閉症(新版)	7 名
	法人基本理念の理解	1 2 名
3 月期	強度行動障がい(新版)	7 名
	安全運転研修	1 2 名
	障害者虐待防止・身体拘束等適正化研修	6 名

※ 研修コンテンツを活用した動画視聴研修以外にグループワーク等も適宜、開催しました。

5. 防災事業

① 訓練

感染症 BCP に基づき、法人安全衛生委員会が主催する感染症対策研修への事業所職員の派遣、参加職員による所内での伝達研修を実施しました。

② 備品 災害用非常食の更新を行ないました。

6. 総括

支援事業では昨年度同様、生涯発達支援の考え方を基本とし、各利用者の方に対して重点支援領域を設定し個別支援計画に基づき支援を行ないました。4 月に新規利用者 2 名(内、1 名は他事業所から異動)、8 月に 1 名の計 3 名の利用が開始し、契約者数も 25 名から 28 名に増加しました。利用者の増加に伴い個別のニーズに対応すべく小集団でのレクリエーションの導入や地元漁協との水福連携の開始含め活動再編及び障がい特性に応じた支援環境の見直しに着手しました。今後も利用者の方個々の障がい種別や行動特性に応じた支援環境の整備については継続して検討を行います。

施設管理事業については、公益財団法人神奈川県介護福祉士会による第三者評価を受審しました。事前提出書類については、施設長以下、業務リーダー含む中堅層の生活支援員とで役割を分担し書類を作成することで事業所の現状や課題の整理に繋がりました。また新規利用者の受入れや今後のサービスの需要を鑑み、定員変更について葉山町への事前相談を経て、神奈川県に届出を行いました。

施設整備事業については、来客者等の利便性の向上を図るべく敷地内駐車場の拡張工事を行いま

した。ジャストサイズ事務所や支援センター風葉山相談の移転に伴い、事業所車輛や職員の車輛が増車しましたが、後援会役員会等の会議の開催含め一定の利便性の向上に繋がりました。

研修事業では、5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、外部研修も再開し常勤職員を中心に職種や職責に応じた研修に多くの職員を派遣することができました。非常勤職員については昨年度同様、福祉動画コンテンツを活用した研修を中心に受講しました。今後も支援の質の向上を目的とした研修の機会を確保していきます。

事業全般としては今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により7月と2月に利用者のコロナ陽性及び濃厚接触者による利用自粛があったため稼働率が下がりました。次年度以降も感染予防対策を講じながら安定した稼働率の確保に努めます。また次年度は新たに2名(高等部卒業生)の利用を予定しているため、多様化する本人及び家族のニーズに対応すべく関係機関と連携しながら職員個々の支援の質の向上や地域ニーズに対応すべく新たな事業展開の検討を進めてまいります。

支援センター風：逗子市委託相談支援及び葉山町委託相談支援事業（逗子市・葉山町委託）

1. 支援事業

①相談支援の状況

逗子市：54名 694件 葉山町：15名 285件
両地域合わせて相談員員数 11名 常勤換算 6.7人 昨年比+0.3人

②活動の状況

訪問、同行、電話相談、個別支援会議、関係機関とのサービス調整及びサービス等利用計画に係る事務を行いました。

2. 総括

指定計画相談支援事業、指定障害児相談事業と一体的に運営しています。

相談件数については委託相談のみの集計となりました。就労している方の生活面の相談、介護保険と障害福祉サービスのはざまのケース、サービス利用を希望しているが利用先が見つからないため計画に移行しないケース、短期間で意向が変化しサービス利用につながらないケース、家庭環境が複雑で養育者に障がいのあるケース、障がいがあり不登校になっているケース、発達障がいやひきこもりのお子さんの社会との接点としての定期訪問等、多岐に渡りました。

支援センター風：指定計画相談支援及び指定障害児相談支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

①計画作成件数

逗子市民：573件 葉山町民：423件 横須賀市民：1件 鎌倉市民：4件 計 1001件
昨年比：+143件
計画相談利用人数：294名
障害児相談利用人数：163名
共に令和6年3月時点での利用者数

②活動の状況

アセスメント、サービス等利用計画案の作成、個別支援会議の開催、サービス等利用計画作成及びモニタリング作成がサイクルで行われており、これらに付随して面接、訪問、連絡調整及び申請等援助を実施しました。

2. 総括

計画作成件数（モニタリング含む）は前年度比 143件増となりました。利用人数が増えたこと、遅れが生じていたケースへの再アプローチが主な要因です。新規利用の内、児童のケースの増加が顕著です。その中でも当初から福祉サービスへの明確な利用希望があることも近年の傾向となりました。また多職種連携という視点からは障害福祉、児童福祉サービスだけでは支援ニーズに対応できないケースについては介護保険サービスや生活困窮者自立支援制度、成年後見人、保健医療機関、教育機関、企業、就労支援機関、行政機関等様々な分野の機関との連携が実績として増加しています。複雑化する支援ニーズに対応すべく、相談員一人ひとりの制度理解、社会資源の理解、資質、スキルの向上がさらに求められています。きょうだいに支援が必要なケース、親子共に支援が必要なケース、介護保険との併用ケースなど障害福祉サービスだけでは解決できないニーズがある

ケースの増加傾向は続いています。その中で障害種別の違いはあっても比較的軽度な方の在宅やグループホーム等での生活が立ち行かなくなるケースも件数としては少ないながら課題となりました。

支援センター風：逗子市基幹相談支援センター事業（逗子市委託）

1. 支援事業

①総合・専門的な相談支援

市内の支援機関からの要請によって困難事例へのスーパーバイズや多機関連携会議、制度活用の相談、地域資源についての問い合わせ相談に応じました。委託相談を受けていない指定相談支援事業所への訪問を通じ、各相談員の抱えているケースについてや日ごろ感じている課題感について話を伺いました。

②地域の相談支援体制強化の取組み

市内の相談支援機関との連絡会の開催（12回）、事例検討会（5回）、勉強会（1回）を行いました。地域生活支援拠点等事業の検証及び検討を行う場を設けました。また、重層的支援体制整備事業や精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの推進において、多職種連携の重要性が増しています。社会福祉課地域共生係の定例会議への参加や、連絡会における事例検討会に地域包括支援センターにも参加していただくなど、顔の見える関係づくりと連携の強化に取り組みました。

③その他権利擁護とアンガーマネジメントと題し、権利擁護を行う立場の支援者が自分の感情をコントロールすることの重要性を学ぶ研修、意思決定支援研修として、実際に意思決定支援に取り組んでいる施設から取り組みの報告をいただくほか、神奈川県福祉こどもみらい局共生推進本部当事者目線障害福祉グループより意思決定支援に関する説明をいただきました。地域移行事例検討・情報交換会について、葉山町基幹相談支援センターと共催しました。ピアサポーターをお招きし、ピアサポーターとしての活動内容やご自身の体験談を話していただくことで、当事者が求める支援について知ることができました。また、精神科病院から退院支援委員会に関する講義と退院事例の報告をいただき、知識を得ることができました。

2. 総括

例年通り事例検討会については今年度も同様に実施しました。研修会については年間予定に基づき地域課題に対応したテーマを抽出し実施しました。連絡会以外の個別支援の場面での連携が増していることが土台となり共通課題の認識、事例検討を通して共感が得られる場面も増えている印象です。地域生活支援拠点等事業に関する検証及び検討のほか、重層的支援体制整備事業、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて関係各所と共同しながら取り組んでいきます。

支援センター風：葉山町基幹相談支援センター事業（葉山市委託）

1. 支援事業

①総合・専門的な相談支援の実施

町内外の支援機関からの相談に応じました。介護保険との併用、地域包括から繋がった介護保険利用中のご家族の障がい疑われるケース、高齢化した障害ある方のサービス、障害福祉サービス制度運用についての相談が主な相談内容でした。コロナの5類移行により地域の関係機関との対面での連絡会の開催は行いましたが、アウトリーチによる事業所訪問は取り組むことが出来ておらず

継続的な課題となっています。

②地域の相談支援体制強化の取組み

自立支援協議会と一体的な運営であり、毎月の相談支援事業所とのネットワーク会議とその場を使った事例検討の機会を年5回持ちました。研修の機会は逗子市基幹相談支援センターと協働し、医療的ケアが必要な高齢障がい者支援、権利擁護におけるアンガーマネジメント、就労支援、ピアサポーター・MSWを招いての地域移行・定着、意思決定支援、自閉症について等をテーマに研修を実施しました。

③葉山町自立支援協議会の企画運営

全体会議	運営会議	相談支援ネットワーク委員会	地域生活支援ネットワーク委員会
8/7、3/22	7/21、2/28	毎月	7/18、8/22、10/6、10/30、12/27、1/26、3/15

2. 総括

他市の関係機関から地域資源や、制度についての問い合わせなど、様々な内容で相談を受けました。相談支援ネットワーク委員会では、今年度より地域包括支援センターや葉山町子ども育成課の保健師等を参加者に加え、様々な視点から困難事例の検討をすると共に多職種連携の土台作りにも繋がりました。地域生活支援ネットワーク委員会では普及啓発のためのノベルティ、民生委員児童委員との勉強会、障害者週間のパネル展示について検討し、ノベルティの配布や障害者週間の取り組みに繋げることができました。

支援センター風：逗子市地域活動支援センター（逗子市委託）

1. 支援事業

逗子市在住の各種障害者手帳保持者を対象として学習、作業活動等を提供する事業です。また、制度のはざま事業として障害者手帳を所持していない方の受入れも行います。体験を重ね利用に向けた準備段階にある方が1名、就労継続支援B型の利用に移行し、地域活動支援センターの利用を卒業された方が1名いました。

- ① 年齢構成 24歳～65歳
- ② 利用者の状況

	人数		人数
知的障がい	10	精神障がい	2
発達障害	1	高次脳機能障害	1
		合計	14

③ 入退所の状況

新規利用者 1名
退所者 3名

2. 総括

主査1名、指導員2名、相談員兼務3名、常勤換算2名の体制で運営しました。就労されている方の就労以外の社会活動の場、社会的接点が長らく無かった方の居場所、重複障害（知的・精神）による適合サービスが無い方の日中活動の場など地域の機関での受入れが困難な方に利用ニーズがある傾向は継続しています。1日の利用平均人数は3名（昨年比-1.2）となりました。

多様なニーズに応じたプログラムとして室内活動では、漢字や計算の学習、パソコン入力、塗り絵、習字の他、毎月の創作活動において季節の壁画制作を行いました。社会貢献としてペットボトルのキャップ回収を通してワクチン寄付活動、地域交流・社会参加を目的とした逗子ふれあいマーケットへの参加、健康維持のための運動プログラムに加え、年間を通じて SST（ソーシャルスキルトレーニング）を行いました。

利用人数の減少とは対照的に利用者層の多様化や、障がいの重い方の受け入れを行うにあたり、個別の対応が求められる場面が増加しています。利用者が安定し自立して行動できるよう環境整備を行い、対応についてはケースカンファレンス等を活用し検討していくことが必要です。その他、関係機関との情報共有、連携を強化し、利用者支援に活かしていきます。

支援センター風：逗子市自立支援会議運営事業（逗子市委託）

1. 支援事業

全体会議	運営会議	専門会議（子ども支援）	専門会議（就労支援）	定例会議
8/4、2/22	6/30、1/15	10/23、2/1	7/13、12/5	毎月

各会議に係る議事等の検討、資料作成、会議開催に関する調整と周知及び議事録の作成を行いました。

2. 総括

令和5年度の逗子市自立支援会議は、各種感染症の影響を受けることなく、対面での会議形式で実施しました。地域生活支援拠点等事業の運用状況の検証及び検討、第7期障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画について等メンバーより意見を聴取しました。新たに設置した専門会議（子ども支援部門）では子ども支援に関する課題について、メンバーより意見を聴取し、医療的ケア児の協議の場としても状況等を共有しました。次年度についてはライフステージを見通せるフローチャートの作成により相談先が明確になることで、保護者が子育てに見通しを持てること、関係機関同士の連携の一助となるよう取り組みます。

引き続き基幹相談支援センター連絡会と連携し抽出された課題に対応すべく、地域の関係機関との連携機会を継続的に持てるように取り組みます。

支援センター風：介護保険・居宅介護支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

自宅において日常生活を営むために必要なサービスを利用できるよう居宅サービス計画を公正中立の立場で作成する介護保険法に基づいた事業です。

① 給付管理実績（ケアマネジャーは給付管理実績に基づき介護報酬を得ます。）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
管理数	36 (+1)	35 (-1)	33 (-3)	32 (-7)	32 (-7)	33 (±0)
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
35 (+2)	33 (-1)	32 (-3)	40 (+5)	39 (+5)	41 (+8)	421 (+3)

② その他

利用者の平均年齢は75.6歳（+2.4歳）、平均介護度は2.8（±0）でした。

障害福祉サービスを併用している方は21名（-3名）でした。

2. 総括

通年で給付管理件数は421件であり、昨年より3件増大しました。入院入所等で利用終了者10名に対し、新規利用者が13名であり、新規利用者が利用終了者を通年で上回っています。平均年齢や平均介護度は入退院等で年度内において給付管理の有無が生じるケースもある為、令和6年3月時点での数値となります。21名の方が障害福祉サービスを併用しており、さらに65歳以下（2号被保険者）で認知症をはじめとする特定疾病の発症による利用者も8名を数え、介護保険サービスと障害福祉サービス双方の連携したケアマネジメントが当事業所の特徴となっています。

昨年に引き続き、地域包括支援センターにおいて対応している困難事例や他機関多職種連携を要す事例、家族全体に複合的課題があるケースを複数支援し、地域ニーズに応えるよう努めてまいりました。

新規利用ケース13名の内、2名が当法人通所施設の利用者及び利用者の親のケアマネジメントであり、利用者個々の支援あるいは世帯への支援に介護保険サービスが不可欠になっていることから潜在的な利用者を多く含む事業と考えられます。

支援センター風：各事業共通

1. 施設管理事業

各事業における事務の効率化のため、相談支援及び介護保険においてクラウドサービスを引き続き利用しました。共有するファイル利用の効率化の為、ローカルネットワーク内に共有フォルダを活用しました。

2. 施設整備事業

- ・2階事務室他のエアコンの部分更新工事を実施しました。

3. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
4月26日	障害支援区分認定調査員研修	佐々木涼
5月15日	介護保険認定調査員研修	大房
5月19日	障害支援区分認定調査員研修	松島
6月28日	発達障がいに医療が出来ることと医療だけが出来ること	新井・吉原・萩原 大野・佐々木涼・興野
6～8月	相談支援専門員現任研修	宇賀神
8～10月	介護支援専門員再研修	大房
10～12月	相談支援専門員初任者研修	新井・佐々木涼・松島
10月16日	障がいのある方の就労支援と共生社会	宇賀神
11月8日	知的・精神障害特性の理解とケア	新井
11月9日	井戸端サロン「人生をしまう時間（とき）」	新井・染谷・稲木
11月14日	地域で暮らす精神障がい者を支えるための研修	萩原・大野
12月7日	統合失調症の理解と支援	新井・大野
1月10日	複合課題が連鎖して、支援の軸が見つかりづらいケース	新井・萩原・大野
1月28日	精神保健福祉後援会 支える人を一人にしない	萩原・大野
2月27日	井戸端サロン「訪問看護の導入について」	新井・萩原・宇賀神

		大野・宮内
2月28日	地域で考えるアドバンス・ケア・プランニング	新井
3月6日	重層的支援研修「引きこもり」に対する基本的理解と支援	新井・大野・宮内

【所内研修】

実施日	内容	担当講師
10/16	医療的ケア児の通学支援事業について	大野
10/23	担当利用者から学ぶ障がいと疾病	吉原
10/30	同行援護について	宇賀神
11/6	発達障害について	佐々木紀
11/13	ダウン症と認知症（法人内の事例から）	染谷
11/20	てんかんについて	松島
12/11	児童相談所の機能	荒井
12/18	自閉スペクトラム症について	佐々木涼
12/25	令和6年度報酬改定について	新井
1/15	社会福祉法人会計について	渡邊
1/22	様々な過敏症について	興野
2/19	SSTについて	飯田
2/26	自立支援協議会について	萩原
3/11	40歳を過ぎたら～フレイルについて～	大房
3/18	ともに生きる神奈川憲章と本人会	稲木

※所内研修 事例検討会 年4回

4. 防災事業

①訓練

- ・ mai!えるしいと合同で、火災避難訓練1回、津波避難訓練1回を行いました。
- ・ 防災備品の点検を行い、防災用品リストの更新及び非常食の状況確認を行いました。

グループホームジャストサイズ（共同生活援助）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性28名 女性16名
- ②年齢構成 28歳～67歳（平均年齢49歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	1	5	9	12	17	44

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	32	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	11	重複障がい（知的、身体、精神）	1
		合計	44

④ 入退所の状況

- 新規利用者 1名
- 退所者 1名

⑤ 支援の内容

- ・全8棟365日運営の2年目となりました。新型コロナウイルス感染予防に取り組みましたが、散発的に罹患する利用者、職員があり住居での待機や一時帰宅、シフトの変更等で対応いたしました。高齢期に差し掛かる利用者もいるため、予防は継続します。
- ・余暇的取り組みを徐々に再開できた年となりました。逗子海岸の花火大会の鑑賞、外出イベント、お食事イベント、住居間を跨いだイベントに取り組みました。生活を豊かにする取り組みは大小問わず、継続してまいります。
- ・令和5年4月以降、6名の採用を行いました。虐待防止の一環である採用時の実習については通所施設での一定期間の研修を経て、ジャストサイズでの実習勤務を行い、その後通常の勤務に入る流れを踏襲しました。
- ・医療連携については通所看護師の兼務による住居の訪問6棟で継続し、健康管理の取り組みを実施しました。個別で訪問診療、訪問看護の利用を開始された方が8名となりました。現在も調整中の利用者もあり、増加の見込みです。これにより、夜間時の急変に対応できるオンコール体制や往診だけでなく、定期的に医療者の目があることによる病気の予防にも取り組める基盤となりつつあります。

2. 施設管理事業

- ・全常勤で行う職員会議、住居担当の常勤とサビ管、管理者で行う住居会議、非常勤を含む住居単位の支援員会議は今年度も同様の形態で取り組みました。支援員会議の時間を使い、体験的学習の場を各住居複数回もち、非常勤職員にも研修の場を提供しました。
- ・新型コロナウイルス予防対策により休止していた家族懇談会を数年ぶりに持つことが出来ました。

3. 施設整備事業

- ・法令に基づく年2回の消防設備点検を実施しました。
- ・専門の業者による清掃はハウスクリーニングとエアコンクリーニングを実施しました。
- ・事務所が7月に新葉山はばたき内に移転しました。
- ・各住居の共用部分に見守りカメラを設置し、運用を開始しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
7/14	意思決定ガイドライン研修	山下
7/20	中堅職員合同交流・研修会	角田
9/4	鎌倉保健福祉事務所 感染症予防研修会	吉田・浅井
9/15, 22	キャリアパス対応生涯研修課程 初任者	吉田・山田
10/7	ぜんちオンラインセミナー てんかんの正しい理解	山田
10/25, 26	キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員	浅井・磯村
12/22・1/25	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	辰仁・角田
1/29	苦情解決研修会	菊池
2/20	社会福祉基礎研修（学び直し編）	吉田
2/22	神奈川県障害福祉サービス集団指導講習会	菊池・志村

【所内研修】

実施日	内容	参加者
随時	(体験学習) 伝わらない体験・落ち着かない体験・聞き取れない体験 1点集中の世界・曖昧と具体の違い	正職員・非常勤
随時	聴覚情報と視覚情報	正職員・非常勤
随時	氷山モデルの理解	正職員・非常勤
随時	10年後の利用者を想像する	正職員・非常勤
随時	チームビルディング研修	正職員・非常勤
2/8	法人理念を考え直す	正職員

5. 防災事業

- ①訓練 各住居で火災を想定した避難、地震と津波を想定した避難訓練をそれぞれ実施しました。
- ②備品 非常用食料、飲料水を更新しました。

6. 総括

日々の支援の質を高めていくことが虐待防止の取組みとなる考え方に立ち、通常の事業運営を行ってきました。職員同士のコミュニケーションと開かれた各住居の運営は今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

7月に老衰に伴う入院加療の必要性から1名の利用者が入院退居、後にご逝去されました。訪問診療による定期的な医療ケアがあったことにより、ジャストサイズでの生活を伸ばすことが出来たと思われまます。今後のモデルケースとなりえる経験となりました。訪問診療を利用する利用者が増加しております。治療のための医療だけでなく日常生活を支える医療の活用はこれからさらに重要となります。高齢化に伴う支援、予防的支援、介護技術など幅広い知識と技術が求められています。同時に行動障害のある方のグループホームでの生活支援についても当所だけでなく、通所事業所との連携と共同で検討し続けられる開かれた関係性を維持していく必要があります。

12月に新規利用者1名を受入れました。この利用卒への希望者が10名以上あったことから、ご利用者、ご家族の高齢化が進む中、グループホームへのニーズが高い現状を再確認することとなりました。

中期事業計画に位置付けた新たなグループホームの準備に並行して職員の確保及び既存の運営方法の見直しなども検討し、今後も逗子葉山での地域生活が継続できるよう努めていきます。

グループホームジャストサイズ（短期入所）

1. 支援事業

ジャストサイズ小坪

- ① 男女人数 男性 18名 (+7) 女性 7名 (+1)
- ② 年齢構成 20歳～63歳
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	0	4	7	8	6	25

ジャストサイズ堀内

- ① 男女人数 女性8名 (-1)
- ② 年齢構成 26歳～63歳
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	0	3	3	2	0	8

2. 総括

前年同様、新型コロナウイルス陽性者があった時期は利用の自粛を要請させて頂いたことがありました。堀内の男性居室を1室減としたこともあり、小坪の男性利用は高まりましたが、必要に対して十分な利用枠を提供できず、利用しづらい状況が続いてしまいました。ご家族のご都合による週末利用のニーズが増え、一部サービスを提供することが出来ました。今後もニーズが高まることが予想されます。

ご本人、ご家族の高齢化による利用ニーズは引き続き増加の傾向にありますが、他方で若い世代のご利用も増えてきています。

短期入所は、ご家族の休息、ご本人の自宅以外での生活体験・経験の場、ご家庭の緊急時への対応など様々な機能がありますが、生活体験の場にはある一定程度の期間利用して頂く利用枠が必要となり、緊急時の受入についても同様です。新しいグループホーム運営において、これらのニーズに対するサービス提供を検討してまいります。

委員会・研究会

1. 委員会

*虐待防止・身体拘束等適正化委員会（委員長：杉山 正彦）

委員会を1回開催しました。委員会では、法人全体としての規程類から実際の支援の場面での虐待防止と適正な身体拘束が実施されているか確認し、研修の実施手法等についても、審議しました。審議の結果、指針を改め委員会を合理的・効果的に開催するため年間の開催回数を1回に改めました。委員会委員については、法人として更なる体制強化のため、虐待防止・身体拘束適正化委員会の委員構成の見直しを行い、虐待防止受付担当者を委員として加えました。

研修は、全職員を対象として、研修システムを利用したweb研修に加え、神奈川県立保健福祉大学より講師を招き、虐待防止と身体拘束適正化の2つのテーマで集合研修を実施しました。また、虐待防止・身体拘束適正化のため、全職員を対象としたアンケートを実施しました。

今後とも、虐待防止のための計画づくりや職員への研修実施、虐待防止のチェックとモニタリング等に取り組み、併せて身体拘束等の適正化のための対策についても検討を進めてまいります。

*支援向上委員会（委員長：植草良太）

各職員の利用者支援の理解度や意識を問う調査を行い、各事業所における職員育成の一助とすることを目的に、毎年常勤職員に対し「利用者に応じた個別支援プログラムに関する調査」と「緊急時の対応に関する調査」のアンケート調査を実施していますが、アンケートの設問内容の理解や解釈にばらつきがみられ、適切に回答ができない等の課題がありました。そこで今年度は、アンケートに答える職員が、1つ1つの設問を正しく理解することを目的に、根拠となる資料や文献等を用いて、アンケートの手引きを作成しました。

次年度以降、この手引きを活用しアンケートを実施する予定です。

*安全衛生委員会（委員長：鹿遊英樹）

定例会議は月1回、ZOOMにて開催いたしました。感染症対策グッズ（嘔吐物処理用）の確認、感染症対策ハンドブックの改訂、新型コロナウイルス・インフルエンザ予防啓発、5S施設巡回など1年かけて取り組みを行いました。メンタルヘルスケア研修はeラーニングで実施し、感染症対策研修は外部講師を招き講義と嘔吐物処理の実践を行いました。次年度も年間スケジュールを組み、計画的に進めていきたいと考えております。

*コンプライアンス委員会（委員長：橋 昌邦）

令和5年度は、3つの取り組みを行いました。法人職員研修会は、法令遵守の意味合いとして、虐待防止・身体拘束適正化委員会主催との合同研修にて、神奈川県立保健福祉大学岸川学先生をお招きし「障害のある人への人権擁護と虐待防止」を実施しました。行動強化月間については、組織人として「行うべき倫理的行動」の目標設定の提示、呼びかけを実施しました。改善提案については、共同生活援助の請求確認シートの更新を実施しました。行動強化月間については、一定の成果を上げたため終了とし、今後は、研修内容の検討及び報酬改定の内容確認、請求確認シート書式の作成を進めます。

*広報委員会（委員長：吉原智恵子）

「湘南の風会報」の発行、法人ホームページ・法人案内の更新を行いました。利用者ご家族及び地域

への積極的な情報提供をしていく役割の下「湘南の風会報」は年度内に4号発行し、湘南の風で働く職員、それぞれの事業所での活動を紹介し情報発信を行いました。より良い職員に入職頂けるよう、他法人のホームページも参考に検討を行い、法人ホームページの職員採用コーナーの全面的な見直しを行っています。(R6にリニューアル予定)

法人ホームページは皆さまに興味を持ってもらえるよう季節ごとで写真をリニューアルするよう取り組みました。今後も利用者ご家族及び地域の方々へ積極的な情報を提供してまいります。

*感謝デイ実行委員会(委員長:荒井隼人)

1. 日 時 令和6年10月6日(土)10時~14時
2. 場 所 湘南の風もやい全館、もやい駐車場
3. 共 催 社会福祉法人湘南の風 後援会
4. 協 力 逗子市
5. 後 援 葉山町、逗子市社会福祉協議会、葉山町社会福祉協議会
6. 協力団体 小坪区会 小坪商栄会、西町祭礼委員会、逗子市消防署、逗子市手をつなぐ育成会 葉山町手をつなぐ育成会、逗子開成高等学校、もやい家族会、えいむ家族会、新葉山はばたき家族会、日本栄養給食、お祭り委員会(もやい、えいむ、葉山はばたき mai!えるしい、各事業所の利用者)
6. 来場者数 250名(推計)
7. 総 括 今年度は台風による中止やコロナ禍を経て5年ぶりに開催することができました。間隔があいてしまったこともあり、開催することに重点を置いた形での委員会活動になりました。育成会との連携や外部への周知の面では改善の余地があると考えています。来年度は開催の規模や催し物の内容を改めて精査した上で、地域との交流を重点に置き、開催準備を進めていくことが望ましいと考えます。

*研修委員会(委員長:萩原崇至)

接遇研修及び介護技術研修、食事介助及び嚥下機能研修の企画の他、法人本部総務課とも連携し中間事業報告会及び事業報告会の企画・運営を行ないました。今年度は法人主催の研修の開催が重複する月もあったため、次年度に向けて各研修が計画的に行なえるよう法人本部ならびに各委員会と協働して職員育成に寄与すべく活動を進めてまいります。

2. 研究会

*自閉症研究会(会長:山崎彰雄)

法人内における自閉症者支援の在り方の研究と普及を目的として、各事業所から十数名の職員が参加し、11回の研究会を開催しました。内容は、講義と演習を中心に「自閉症の理解」、「専門的なアセスメントの知識・技術の獲得」、「PECS(絵カードコミュニケーションシステム)の実践」等に取り組みました。研究会での取り組み後、早速支援現場に活かす事業所もあり、有意義な研究会となりました。今後も、自閉症者支援に関する様々な取り組みの実践と検証を行います。

*高齢化支援研究会(アドバイザー:萩原崇至)

法人の主要課題でもある利用者の重度化・高齢化に対応すべく全6回の開催となりました。法人内高齢利用者の事例の共有の他、これまで受けてきた支援の経過の共有以外に独立行政法人国立のぞみの園の研究結果に関する勉強会、高齢期利用者のアセスメント(案)の作成を行いました。次年度は高齢

利用者のアセスメント(案)を活用しながら高齢期に入る前の予防的な支援の在り方の検討等を進めてまいります。

*生活支援研究会（アドバイザー：新井宏二）

令和5年度の研究会は全9回の開催となりました。生活支援に対する理解を深める映画『道草』の上映会を行い『地域で暮らすこと』の一つの在り方を垣間見ることが出来ました。法人内各事業所の連携に関するアンケートについて実施しました。集計は令和6年度の取り組みになりますがアンケートは今後も定期的に行い連携の在り方について有効な方法等を模索していきます。法人内通所利用者を対象とした地域生活に関するアンケートの実施に向けて内容を精査しました。地域生活を考えるうへでご利用者・ご家族が考える地域生活のイメージやニーズをお聞かせいただくアンケートは令和6年度に実施予定です。今後も地域生活に必要な資源、他地域での取り組み等を学び、法人運営に資するよう研究を続けていきます。